

安倍晋三元首相への追悼文

打谷石材㈱代表取締役
奈良県経済倶楽部 理事
奈良県経済倶楽部ビルテナント
打谷久義氏



2003年9月 首相官邸にて
当時、安倍官房副長官と共に

当倶楽部親睦委員会で、新官邸が完成を見た翌年（平成15年9月10日～11日）に北朝鮮工作船・新丸ビル・六本木ヒルズ（開業年）、泉岳寺等の東京見学に加え、当時経産省副大臣で、県選出の高市早苗氏より、首相官邸にて安倍官房副長官に面会がかなうという伝達を戴き、スケジュールを組み替え官邸へ。バスが表玄関に到着するのに合わせ、官内二階の緩い階段を足早に降りて来られ、満面の笑顔で、態々（わざわざ）バスの乗降口まで、お出迎え下さり、これからの日本の舵取りの一翼を担っていただくに、最も相応しい風格漂う青年政治家には、然も快く前列の中心に収まっていたご記憶の記念撮影でありました。

あれから20年、安倍氏はどんどん栄達の道を歩まれ、私たちにはそれなりに捲（めく）るめく走馬灯よろしく、充実した人生であったことを今更ながらに振り返り、今回の悲しみに堪えては、当時の訪問を想い出している次第です。それにしても月日の経つのは早く、光陰矢の如しは正にこの20年の歳月であったかと。写真に見入っては、大先輩の奥村相談役以下お元気な方と申せば、ほんの一握りの方々を散見するのみ、寂しい限りである。ということで、偶々テナントに仲間入りさせていただいたご縁もあり、時間の制約もあつたか、会長様から急な指名をいただき、拙い文章ながら、なんとか悲しみを俵（こら）えての擱筆に漕ぎ着けた次第です。写真に写るお元気な35名の内、一番お若いのは元総理ですが、無念にも鬼籍に入られ、又お亡くなりになられた参加会員の皆様も、今は嘸（さぞか）し黄泉の国にて、当時を懐かしく慮（おもんばか）りながら、今日の世界情勢の危機と日本の難局をどう打開すべきか、丁々発止賑やかに談笑なされていることであらう。

大和の名僧がありし日、法話なされていた「かたよらない心、こだわらない心、とらわれない心、もっともっと広く、これが般若心経空の心なり」。に照らし、国民の広く、大きく、澄んだ気心で、爽やかに国葬にてお見送りしたいものです。

黙禱